

丹波市 地域おこし 協力隊

地域おこし協力隊の活動を報告します

自然エネルギーの地域循環をめざす 阪口 明美さん vol.43

経歴：大阪府出身。大阪で会社員をしながら林業を学んだ後、山に関わる仕事を求めて丹波市に移住。
任期：平成31年1月～



こんにちは、阪口です。森林整備で切り出された原木を買い取り、自然エネルギーとして地域内に循環させる「丹波市木の駅プロジェクト」の運営支援を行っています。同プロジェクトでは、買い取った原木を保管するストックヤードとして春日町野村の「まきんこの森」を活用しています。その「まきんこの森」から頂上までの登山道を、女性4人で開拓する新たな活動「プロジェクト0.551キロ」を進めています。

登山道を開拓するにあたり、まずは地元の許可をいただき、登山ルートの確定を行いました。ルート確定後の倒木処理では、木の駅プロジェクト主催のチェーンソー講習を受講していたので安全に作業を行うことができました。

そして、まもなく「立木を伐らない登山道」が完成します。5月には、山開きを記念して山歩きツアーの開催が決まりました。素晴らしい景色だけではなく、山の厳しさ、恵みを感じてもらいたいと思っています。地元の方はもちろんのこと、市外からも登山客を誘致することで丹波市が盛り上がり、地域活性化につなげることができたらと思っています。



「プロジェクト0.551キロ」のメンバー

市長・林時彦の 時を駆ける



市役所に20人の新しい仲間を迎えました

4月1日、新規採用職員辞令交付式を行いました。今年は、就職氷河期世代の採用枠4人を含む20人を採用しました。

新規採用職員には、自己紹介を兼ねて決意表明をしてもらいました。「元氣と若さを発揮して頑張っています」「社会人の経験を生かし、市民に寄り添った対応を心がけ、しっかりと働けるよう頑張っています」など、それぞれが力強く語ってくれました。先輩職員みなで育成し、市民のみなさんに寄り添える職員になっと思っています。

私からは、「私も4カ月前に就任したばかり。私の目標である『帰って来いよ』と言える丹波市にするために、一緒に頑張っています。そのために、①自分から率先して同僚・先輩・市民のみなさんに気持ちの良いあいさつをしよう②ホウレンソウ『報告・連絡・相談』を確実に実践し、一人で抱

え込まないようにしよう③市役所という組織の一員としての自覚を持って、活動しよう」とエールを送りました。

また、幹部職員への訓示式では、「上司と部下との間の風通しを良くし、十分に話ができる職場づくりを目指しましょう。もちろん、私にも気軽に相談していただきたい」と呼びかけました。

4月に入り、丹波市においても新型コロナウイルスの感染が拡大する傾向にあり、1人ひとりが自分の身を守ることも大切になってきています。きつちりと「マスクの着用」「丁寧な手洗い」「手指の消毒」に努めていただき、大勢での会食や大声での会話を長時間することなども控えていただきますよう、お願いいたします。

丹波市長 林時彦



新規採用職員辞令交付式の様子